

児童デイサービスNEWS



水遊びするN君

夏休み中の市民プールは地域の子どもたちでいっぱい。その中に水を楽しんでいるデイの児童たちもいます。監視員の方の協力もあり、今年も無事にプールケアが終わりました。少しずつ地域の子どもたちとの接点が増えてきています。

『市民プール まごころでのひとこま』

8月に入って毎日のように水遊び。ほとんどの児童が水着を持って来所します。1日2～3人がスタッフと一緒に出かけます。水着に着替えると、待つことができず、すぐプールに直行したがる児童もいますが、「プールに行きます。体操します。」と何度も声をかけ、準備体操をしなければプールに入れないことを関連付けして知らせていきます。

市民プールでは、なかなか水に入ろうとしない児童もいます。そのような時は、浅いプールへ連れて行き、「ワニさん歩き・ラッコ泳ぎ」等と声をかけ、水で遊ぶ楽しさを体験してもらいます。

一方、他の児童はガレージ内でのまごころプールです。ペットボトルに穴をあけ、シャ

ワー替わり。児童たちの顔や背中にかかり、大はしゃぎ。水がなくなると、自分でペットボトルの中へ入れます。

同じ障害を持った児童でも個性があり、障害の理解も必要ですが、やはり障害児も健常児も人と人との触れ合いが一番大切と考えています。

一つ行動が治まると他の行動がニョキニョキと芽を出し、どうして? どうしたら? の疑問が次々と出てきます。

まだまだご家族の苦労には至りませんが、児童を知ろうとする気持ち
を忘れず、これからも
向き合っていこうと思
います。(K. K)



一宮市障害者基本計画に係るヒヤリング調査

8月25日に上記のヒヤリング調査が行われました。

今年度は「一宮市障害者計画」及び「一宮市障害者福祉計画」の見直しの時期にあたり、7月に障害者や市民を対象にアンケート調査がありました。この調査はサービスを提供している事業者や医療関係に具体的なニーズや問題点を上げ、策定の参考とするものです。

ヒヤリング調査において、障害者を取り巻く環境や、事業運営上の問題点や課題、これからの支援のあり方等聞かれ、事業者(当日NPO団体は5団体参加)としての意見を述べました。

10月より、市の事業として「地域生活支援事業」も始まることとなりましたが、方向性は決まったものの、具体的な料金等の数値はまだ示されませんでした。4月の自立支援法施行時も、制度の内容が説明不足で、障害者や事業所にも不満が出ました。もう少し早くから協議し、十分理解を深めて行うべきです。1時間だけの限られた中での調査でしたが、今後も事業所等の連携を持つべく「事業所連絡会」の発足を希望しました。

介護サービスの質を考える

8月17日(木)の「介護保険指定事業者講習会」において、県から以下の項目で説明がありました。

1. 介護保険制度の改正に伴う留意事項について
2. 介護サービスの情報公表について
3. 介護支援専門員(ケアマネ)の更新時の研修について
4. 介護保険関連車両の駐車許可の取扱いについて
5. 苦情に学ぶ介護サービスの質の向上を考える

「介護サービスの情報公表」については、平成19年3月までに約4,500ヶ所のサービス事業者を調査する予定です。

調査情報の報告及び結果をインターネットで公表し、利用者の比較検討・選択を支援するものとしています。

当事業所も、9月末に調査を受けます。問題は、介護サービスの質を上げるため、事業所が如何に指導・研修に取り組んで実施、継続しているかです。当事業所も選ばれる事業所として今後も努力していきます。

ミニデイだより



出会い ふたたび

「昨日テレビでなつかしのメロディがあったけど。村田英雄よりもKさんの方が上手やで。」とOさん。演歌の王様もあの世で、たじたじでは。プロの様な演歌得意のKさんは、いつも皆さんのリクエストに応じられ、語りかけるように歌われます。

数々の苦労があったとお話し下さいますが、「今はなあ、皆さんのお陰でほんとなあ、お陰で。」と。亡くなられた奥様の出会いを照れながら話される笑顔は至福の時。テレホンカードに作られたお二人の仲の良い写真。いつも持ち歩かれておられ、素敵な出会いと思いが伝わって来ました。

Iさんは「見合いというのかな。じいさまは村では「ええ男」で評判だったらしい。どんな嫁さんが来るかと村中の方が楽しみにしてた。それが私や。けど早よう向こう(天国)へ行ってしもったわ。」「生きることに必死だったけれど、今はひ孫もいるので幸せや。」と語られました。

Kさんは「かあちゃんとは自分からアタック・アタックして一緒になった。感謝している。」人生の途中で車椅子になりましたが、やさしい奥様といつまでもご一緒に。

Yさんの出会いは8月のミニデイのこと。ふと訪問して下さった方がお話ししているうちにYさんが教え子とわかり、偶然の24年ぶりの再会がありました。

長い人生を歩んで来られた皆さんに出会いをお聞きすると、楽しそうに又しみじみと語られます。今後も出会いを大切に愛されるミニデイでありたいと願っています。

心づれづれ

恵那路の旅にて

水野 伊佐雄さん

7月6日、朝8時30分過ぎ「思いやり会館」の駐車場に集合して、パソコンクラブ「ありんこ」の会員35名にて、恵那路の「簡保の宿」へと出発しました。

梅雨明けの近い頃にて、雨降りの心配がありました。我が「ありんこ」には晴れ男と晴れ女と言われる人がいまして見事に当日も薄曇りの絶好の旅行日和になりました。

9時には、市の福祉バス「思いやり号」が来て、新緑の美しく映える高速道路の中を目的地に向かって、快走してゆきました。

メンバーは、視覚障がい10名、知的障がい3名、車椅子5名に、あとはボランティアと言う顔ぶれでした。

11時頃目的地に着いて、山菜料理とすき焼きが出てきてビールで乾杯。談笑のうちに昼食を終えて、自由時間となり、1階に下りて土産も買い終えた頃、ボランティアのMさんが少し散歩しましょうと誘われ、車椅子を押して貰いながら外へ出て、少し上り坂を進んで木立に近づいた時に鶯の囀りが聞こえてきました。最初のは、短いものですがもう少し進んだ時に、本囀りというのでしょうか、連続した鶯の囀りを聞くことが出来て、私には初めてのことで、大きな感動を感じる恵那路の旅となりました。

こうしたボランティアの方とのふれ合いや自分とは違う障がいの人との旅を通して新たな自分を発見したような気持ちです。



題字/澤田清敏さん

市民協セミナーのご案内

これから地域コミュニティのためには、団塊世代が活躍して、どのようなサービスを作り出すことができるかが重要です。すでにそのような活動を地域でおこなっているNPOとの出会いの場があります。それが市民協セミナーです。浅野史郎氏(前宮城県知事)の基調講演もあります。新たな活動の場を求めている方ご参加ください。

日時:平成18年9月30日(土) 10:15~17:00
場所:日本財団ビル2階大会議室(港区赤坂1丁目2番2号)
電話:03-6229-5111
定員:200名
参加費:3,000円 締め切り:9月20日(水)

団塊の世代の方へ

